

松下幸之助記念財団 研究助成
研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】成澤 徳子

【所属】(助成決定時) 北海道大学ルサカオフィス

【研究題目】アフリカ農村における女性による社会的ネットワークの形成に関する新視角
—ザンビア・トンガの「友情セレモニー」を事例に—

【研究の目的】(400字程度)

アフリカ女性の社会的ネットワークを扱った人類学的研究には、農村女性に関しては、村内の「伝統的」な社会関係に基づく女性同士の連帯と共同を扱った研究が多い。友人関係の構築といった必ずしも親族関係に基づかない女性の社会的ネットワークに着目した研究は、都市の女性商人による相互扶助と経済的成功を扱う研究に限られてきた。しかし近年、マクロな社会経済変容のもと、農村女性の社会経済活動の種類や範囲は拡大を続け、彼女たちの社会関係の様相は以前より複雑化している。こうした状況のなか、個々の女性たちがいかにして新たな社会関係を形成し、たゆまぬ他者との相互交渉のなかでそれを維持・変容させ、そこに活路を見出しているかを、精緻に分析する研究が求められている。本研究の目的は、ザンビアのトンガ女性たちによる、友人同士で贈り物を贈答し合い絆を深める実践である「友情セレモニー」を対象として、女性たちがいかにして、従来の地縁・血縁・姻戚を基礎とする社会関係とは異なる新しい社会関係を形成・強化し、それを活用することで、自らの生活の保障を得ているかを明らかにすることである。

【研究の内容・方法】(800字程度)

ザンビア共和国南部州モンゼ県の農村には、農耕民トンガの人びとが暮らす。トンガ語でチロングウェ(*chilongwe*)と呼ばれる、友情の絆を育むためのセレモニー(「友情セレモニー」)は、当該地域で90年代以降に盛んに開催されるようになったとされ、女性の間でのみ、農閑期におこなわれている祝祭である。この「友情セレモニー」は、任意にペアを組んだ女性が一方の家に毎年一回集まり、食事による歓待とモノの贈与を繰り返すことで、個人的な知人関係をより強固な友人関係へと発展させるためのものであるとされる。セレモニーで贈り物を贈る側と贈られる(豪華な食事でもてなす)側は、毎年交代する。贈り物は、前年に相手から受け取った贈答品と等価以上のものを贈らなければならないが、経済的事情で贈与を継続できなくなり、すでに相手より多くの贈り物を受け取っている場合には、その負債を相殺する厳格な義務を負う。最終的に、ウシなど、贈り物をより大きくすることができなくなった時点でセレモニーは終焉し、ペアは解消される。このセレモニーには、主催する当地人たちの関係の深化だけでなく、主催者の付添人/協力者や、主催女性たちを祝儀や歌と踊りで祝福するために近所から集まった大勢の女性聴衆など、主催女性が帰属する集団の他の女性が新たな社会関係をつくりだすきっかけを提供する役割もある。

トンガの結婚後の居住は夫方であり、女性は結婚と同時に夫の家族の村へと移住する。そこでは、家庭内労働や葬式などにおける日常的な相互扶助関係である「母であること(motherhood)」に基づく同性間のつながりが唯一存在するものの、この紐帯は非常に弱い(Golson 1958)。在来の互助労働や頼母子講といった女性組織は存在しない。開発援助の影響によって1980年代から活発になった女性クラブ活動(Araki 1997)も現在は下火である。本研究では、このように女性同士の連帯が限定的なトンガ地域における、「友情セレモニー」による友人関係の形成の実態、セレモニー展開の背景とその意味について、文献資料と参与観察・聞き取り調査データの収集・分析をもとに検討した。

【結論・考察】(400字程度)

チロングウェとは元来、男性が生涯にもつ、ハチロングウェ(*haacilongwe*)と呼ばれる同性の親友のこ

とを指す。現在、同じくデロングウェと呼ばれる女性の「友情セレモニー」は、友人への贈与と歓待の繰り返しを聴衆に披露し、贈られたモノを日常的に身につけ使用することで、自身と大勢の他者に共有された記憶により、個人的な友情の絆を常に確かめ合いより確かなものとする装置であるといえる。街に出掛けた稀少な機会を利用して、その贈り物を友人の喜ぶ顔を思い浮かべながら選ぶ楽しさは、セレモニーに伴う醍醐味のひとつである。

セレモニーには友人との贈与交換を着実に履行する「強制力」が働いている。女性は、食料品などと比べ家計のなかで購入が後回しにされがちな台所用品などの日用品を確実に入手できる。セレモニーの相手として親族を選ぶことはない。これは経済的に多少困難な状況におかれても情に流されずセレモニー継続を確かなものにするためである。女性たちは、男性のハデロングウェにもみられる「友情」という一種のモラルを建前とすることで、男性が掌握する世帯家計のなかで最も購入しづらい自身の衣類や靴なども贈り物のかたちで入手している。

以上から「友情セレモニー」とは、男性威信経済の枠にとらわれない、生活の保障や潤いを他者との関係性のなかで見出していく、女性たちの創造的実践であると考えられる。